



ふれあい通信

「ふれあい通信」三百号によせて

会長 山田久男

「ふれあい通信」が発行されて三百号を迎えました。これまで発行発送に携わった会員の皆様に敬意を表すとともに感謝申し上げます。

発刊から三百号に至る経緯については百号・二百号の紙面でも述べておりますが、以後に会員・賛助会員も入れ替わられている事に鑑み改めてその経過を述べてみたいとおもいます。

「ふれあい通信」の前身は、初代会長の松吉氏が会員への行事連絡を中心として「協会だより」の表題により、平成12年4月から発行が開始されました。当初は原稿集めから、紙面作成、印刷、発送まで一人で担当、ワープロで作成、写真も張付けコピーで一色の紙面でした。

5号から「協会ニュース」と名称を変え、会員の意見や投稿による交流・歴史話等を含めた内容に一新しました。10月の7号からはB4判の2頁から現在のA4判4頁になり、さらに9号からは2代会長中川氏がパソコンを活用して誌面作りに参加され、平成13年の新年号からはカラー判の発行となりました。

一方同時期に会員と賛助会員の「ふれあい」を目的に、松吉氏が独自で隔月に「ふれあい通信」を編集し賛助会員への発送が開始されました。

京都史跡ガイド
ボランティア協会
会長 山田久男
編集 澤田 卓



平成22年1月から「協会ニュース」と「ふれあい通信」を統合し、賛助会員にも毎月届けられる様になりました。(同時に上部の発行日を年号表記から西暦表記に変更しました) 最後に「協会ニュース」百号記念の紙面の寄稿文で、松吉氏から、中川氏、澤田氏、北林氏、清水多美子氏に感謝の言葉が捧げられています。さらに、二百号記念では歴代会長(中川氏・中西實氏・細田茂樹氏)から寄稿文も頂きました。(以上、中川・松吉両氏の文章を引用)

雅チーム 花崎喜代子

ふれあい通信三百号おめでとうございます。これも皆様のご努力と熱意の賜物だと思います。

私がこの会に入っていたいたのは何年前だったか、確か祇園祭の鉦の説明のウォークだったと覚えています。ガイドの方の丁寧な説明を聴き入会を決意しました。元々私は歴史は好きだったので、なんの迷いもなく素直にうれしかった。その時に皆様から寄せ書きをいただきました。今でも大切に持っています。

私の最初のウォークは班別のプラカードを持つことでした。その頃の物は手作りで重たく、持つところが荒削りだったので、棘が刺さりそうでしたが、私にとっては歴史を訪ねて歩けることが本当にうれしく思いました。また下見の時には雨が降って困ったことや、

真夏の暑い日に下見に行ったことも懐かしい思い出です。
あれから25年という月日が流れ、何人かの訃報も聞きました。
これからもいろいろなあると思いますが、若い方に引き継いでいつてもらえたら、ますます発展していくことでしょう。



ふれあい通信の題字変遷
2号から43号まで題字の体裁や字体が変化していましたが118号から題字が現在(写真121号)の題字に統一されました。
題字下のカット絵は当協会の高さんが提供されています。
おこしやすマークは京都府観光協会の承諾で掲載



協会ニュースの題字変遷 ⑥まで題字が変わる

- ① 第5号 平成12年8月 B4判
 - ② 第6号 平成12年9月 B4判
 - ③ 第7号 平成12年10月 以後A4判
 - ④ 第8号 平成12年11月 おこしやすマーク
 - ⑤ 第9号 平成12年12月 マークがカラーに
 - ⑥ 第100号 平成20年7月
 - ⑦ 第200号 平成28年11月
- ふれあい通信の題字は元会員原田さん提供



第202回史跡ウォーク

久世・久我の鎮守さまを巡る

チーム葵

今回の史跡ウォークは、京都市南部、桂川西岸の久世から久我（こが）周辺の鎮守さまを巡ります。

祇園祭駒形稚児で有名な「綾戸國中神社」だけでなく、今では住宅地や工業団地となった中に少し小さくなった鎮守の森があり、ひっそりと鎮守さまがいらつしやいました。それらの鎮守さまが大きな森の中にいらつしやった頃を想像しながら巡りたいと思います。少し長くなりますが、ぜひご参加ください。

●実施日 3月16日（日）

●受付時間 午前9時～9時30分

●所要時間 3時間程度

●集合場所 JR桂川駅東口前

●コース ①大神宮→②指差（蔵王堂光福寺）→③綾戸國中神社→④嚴嵩神社→⑤木下神社→⑥菱妻神社（久世）→⑦久世工業団地→⑧菱妻神社（久我）→⑨誕生寺（解散）→⑩おまけ）神川神社→久我神社→久我大臣之墓

※チーム葵の会員は午前8時に、他チームの会員は午前8時30分に集合してください。



誕生寺

氏神・鎮守・産土の神とは？

チーム葵 辻横修造

いずれも神社信仰の一形態を示すもので、現在ではほぼ同義のものとして信仰されていますが、もともとは違うものでした。先祖代々、一定の地域に住み続けている人の中には、この三つが同じ神社という場合もありますが、たいていの人たちはバラバラで、厳密な意味での氏神を捜すことが難しくなっています。《氏神》氏というのは、古代の生活単位としての氏族を意味しました。必ずしも血縁者だけで成立していたわけではなく、共通の氏神を先祖として意識する集団でした。すなわち、氏神というのは共通の祖先神を仰ぐ生活共同体の守り神でした。ちなみに、ウチというコトバは「ウチ（内）から発した語で、そこには地・血・霊を共有する意識がありました。次の四つのパターンに分類できます。

①氏の祖先神

たとえば、藤原氏の祖の天児屋根命。忌部氏の祖の天太王命。阿曇連の祖の綿津見神。なお、嵯峨天皇の勅によつて古代の諸氏（千百八十二氏）の系譜を集成した古代の姓氏事典である『新撰姓氏録』を見ると、かなりの氏について祖神を特定することが可能です。

②直接の祖神ではないものの、氏に由緒ある神。たとえば、藤原氏の鹿島・香取の神。源氏の八幡神。平氏の嚴島の神。

③産土の神と鎮守が混合したもの。出身地に住み続けている場合など。

④氏神・鎮守・産土の神の混合状態。三つの

違いがわからなくなり、同義のものとして信仰している場合。現在では、これが最も多い。

《鎮守》一定の地域を守護する神を祀る社で、一国の場合は諸国一の宮があてられます。その他、王城・城内・寺院などの鎮守神もあります。一般には、ある地域に住む人民を守護する神と考えられています。

《産土》祖先あるいは自分の出身地に対して、特別の思い入れとか出自意識をもって、その土地の神様が自分の運命を左右しているものとして信仰する神。ウブスナの語源については多く説がありますが、民俗学の観点からみると、妊婦が産小屋で立ち産をしたとき、赤ちゃんに付着した砂という説が興味深い。

氏神・鎮守・産土の区別がつかなくなったのは、古代国家の衰退にともない、その鎮座する土地の住民の協力を必要としたからです。しかも、その土地で亡くなった人の靈魂は浄化されてゆく過程で、その土地神に吸収されていく。だから、何代もその土地に住みつづけていくと、三つの区別は次第に合一化していきます。そして、村落共同体が崩壊した今日、言葉の正しい意味での、これら三つの区別がほとんど解体されたといえます。

【出典・神道神祇本廳ホームページ】

おまけ



三百号記念特集

私の紹介したい京都

会員 チーム彩「お気に入りのところ」

【奥西不二】 特定のところはありません。

小さな古びた崩れそうな雰囲気のある場所、そこに佇んでいるとどこからか老女が現れ昔語りをはじめる。ここはズーと昔はすごかった、華麗で優美で壮麗なところであつたのだと。夢現能の世界に浸れるようなところ。

【渡辺高志】 天気の良い日にふと気が向き行つてみたくなるのは松尾山から嵐山城に続く木漏れ陽と展望の尾根道を楽しんだあとは、下山後の温泉がたまりません。

【佐々木孝之】 物集女城跡、「一かけ二かけ、三かけ仕掛けて殺して日が暮れて！」信長にまんまと、はめられ無惨にも殺された物集女氏！「汚ねえ！ぞ！信長！」と物集女城跡からシカバネの声が今も聞こえて来ます。

【酒井源弘】 石山寺（紫式部供養塔）、この宝篋印塔（ほうきょういんとう）は、笠を三つ重ねた珍しい層塔である。初層の四面には仏像が彫られ、それぞれの相輪の代わりに宝珠を冠っている。

鎌倉時代中期のものとみられ、上層軸部を掘り出していることから、寄せ集めでなく美術品としても高い評価を受けている。「女なんて窮屈で悲しい存在なのかなア」紫式部の独り言が聞こえてきます。

【湖城祥夫】 私は「安土桃山時代のテーマパーク」大徳寺をおすすめします。秀吉傘下の大名ゆかりの塔頭も多く、利休の月命日には法要や茶会に参加することもできます。（休みの月あり）。

【岸根郁郎】 若い頃、仕事帰りに何か考えるとき、鴨川の河原（西側）を二条から出町柳までよく歩きました。途中、川音が自分を包み込むほど激しい場所で少し立ち止まり、思いを深めたものです。

【矢野正明】 阿弥陀ヶ峰の山麓に太閤坦と呼ばれている開けた所があります。かつて秀吉の遺言で葬られた豊国廟が建造され、今ある竹生島宝厳寺の絢爛豪華な門がそこにありました。

大坂の陣により豊臣家が滅亡し豊国廟も破却。その後明治天皇により豊国神社が復活。三百年祭には、頂上に五輪塔建立。太閤坦では奉納能が開催。土を掘り返すと秀吉？のミイラが甕から出てきたとのこと。詳細は不明です。「なにはのことも夢のまた夢」眼下には京、大阪・坂の眺望に古き日のロマンを感じます。

私の好きな京都 一乗寺詩仙堂

チーム都 増田好彦

私が京都に住んでいたのはもう40年以上前のことです。当時の左京区一乗寺は学生向けの下宿が沢山ある、所謂学生の街でした。玄関やトイレは共用、風呂がないのはあたりまえ、今様のワンルームマンションとは大違いです。携帯電話などなかったので、急ぎの連絡はピンクの公衆電話が共用廊下に一台、私の下宿もそんなところでした。

今はもう「京一会館」ぎょうぎの白水「ひらがな館」「里の湯」など、当時お世話になっ

たお店はありません。もちろん「天下一品」は健在ですし、とんかつ屋、理髪店など、そのまま残っているお店もありますが、ご主人やマスターは既に代替わりしてしまいました。ただそんな中、今でも全く変わっていないのが下宿のすぐ近くにあった詩仙堂です。友人が遊びに来れば、誰であつても取り敢えず詩仙堂に連れていって、これが「The 京都」と自慢していました。

石川丈山ゆかりの堂宇とお庭だけのこぢんまりしたお寺ですが、縁側からお庭を眺めると、さまざまな種類の木々や草花が春夏秋冬を感じさせてくれる、とてもゆつたりとした時間が過ごせる場所です。お庭に下りるといつも微妙な音がする鹿威しがあり、また見上げれば2階にある丸い窓が印象的です。

当時は三十六歌仙とは、などと難しいことは考えずに、ただ単純に気に入っていました。が、今となってはとも思ひ出深い場所です。ラーメン街道が注目され、随分様変わりした一乗寺ですが、これからもここだけは変わらぬにあって欲しいと願っています。

訪れるべき寺院

チーム都 草野政子

平安時代までは貴族のための仏教が中心だったが、親鸞により浄土真宗が開かれ、念仏を唱えるだけで往生出来る「易行」により、庶民の支持を得て、多くの日本人に受け入れられるようになった。

その後、秀吉・家康の庇護の元、紆余曲折を経て東西に分立「西本願寺」「東本願寺」となり、現在に至っている。両寺はあまりにも大き過ぎ敬遠しがちだが、特別な事がなくても訪れたい。いや、訪れるべき寺院の一つになっている。

尚、私の住んでいる山科には、真宗中興の祖と呼ばれる8代門首蓮如上人が再興した山科本願寺があったが、戦国の争乱で焼失、寺内町の様子がわかる土塁の一部が残っている。

賛助会員

『上賀茂神社』の奥深さ

松澤宏樹

上賀茂神社は、山城国一之宮として下鴨神社とともに、御鎮座以来皇室をはじめ広く人々の信仰を集めて、国宝2棟(本殿と権殿)、重要文化財41棟を含む広大な敷地全てが、ユネスコ世界文化遺産に登録されています。上賀茂神社の御祭神である賀茂別雷大神が降臨されたと伝わるのが神山で、古より禁足地の神聖な山とされてきました。

古代、賀茂氏は祭を行う際に神山の麓に砂を盛り、それを神の依り代「立砂」として神事を執り行っていました。立砂が2つあるのは陰陽道に基づき、左側は陽で3本の松葉が、右側は陰で2本の松葉が立っています。また、本殿が非常時の際に神様にお遷りいただく権殿が、本殿の西隣りに本殿と同じ構えと大きさと方向に、仮殿として常設されているのも唯一ここだけです。



さらに、狛犬と獅子が境内にはなく、鈴も

ないことなども、神社の古来の姿を感じさせます。毎年、事始めの12月13日から旧正月の節分まで、楼門内の中門の上部に宝船が飾られます。

私のお気に入り冷泉通り

小泉健彦

会社の命令で静岡から2年前に単身赴任で京都に着任しました。

ホテルに勤務しているため、観光案内をお客様から求められるのだが、こちらは全くの無知。このままではいけないと勉強のため、史跡ガイドボランティア協会のイベントに参加させていただき日々勉強をしております。

その中で山田会長はじめガイドの皆さんに教えていただいた場所。鴨川から平安神宮に向かう冷泉通りが私のお気に入り場所です。琵琶湖疎水を眺めながら、春には桜も咲き誇り、途中に見える水力発電所もこんな街中にあることに驚きを感じました。

桜のシーズンでも人通りはすくなく、ゆつくりと自分のペースで歩けるのも魅力。

平安神宮に着いたら、その後は岡崎神社・金戒光明寺に向かうか？ 知恩院を通って円山公園・八坂神社に向かうか？ 気分を変えて動物園に行こうか？等、その時々で様々なコースを辿れるのも魅力です。

今後は周辺のB級グルメのお店を覚えていきたいと思っています。

皆様、お会いした際にはぜひ安くて美味しいお店をご教授ください。

私の好きな散策コース

安達吉行

私は学生時代から紫野を歩くのが好きで今でも時々訪れています。

私の散策コースは、大徳寺を南門から境内に入り、境内を抜けて今宮神社へ参り、門前

通りから船岡山に向かい。建勲神社にお参りして、船岡山の山頂へ、山頂から千本通り方面へ降りてゆくコースです。

大徳寺の山門(金毛閣)の前では、秀吉に「いちやもん」をつけられた千利休と古溪和尚の無念さを思い。今宮神社では参道の茶店「一和」か「かざりや」のどちらかで名物「あぶり餅」を頂く。数年前転勤で京都に帰って来た時、両店とも先代の女主人のおばあちゃん元気にあぶり餅を焼いておられるのを見てうれしかったものだ。今宮神社では「お玉さん」のレリーフ前で、当時のお玉さん(桂昌院)は、お万の方のお伴で江戸に下向されたのだが、まさか京にかえってこれられない事になるとは、思わなかっただろう。

船岡山の山頂では、京都市内を一望しながら桓武天皇もここからきつと造営中の平安京を眺められただろうと想像する。

平安時代から現代まで思いを寄せることが出来る。何年たっても変わらない景色、なぜか訪れる毎にほっとする。

私が興味を惹く山科

上村弘一

九州から京都に移住して来て30年になります。京都では他にない歴史の深さを痛感しています。京都では左京区、中京区、山科区と転居していますが現在、興味あるのは山科区の歴史です。

縄文時代から現代にいたるまで魅力あふれています。特に平安時代から存在する門跡寺院、中世の山科本願寺他又、近代遺産の山科疏水、山科川沿いの桜並木、秋の毘沙門堂の紅葉など美しい景色も見れます。山科をもっともっと深掘したいと思っています。

今後とも京都の歴史を史跡ウォークで学んで行きます。

新寺町通

清水満章

「新寺町通」と聞かれて、どこの道と思われませんか？

ひとまち交流館を出て、北向きに歩かれると、五条通の手前に河原町通と五条通をショートカットするような長さ百米位の短い道があります。（図を参考にしてください）

この道が新寺町通と呼ばれている道路になります。

なぜこの道ができたのでしょうか？

五条通の北側には、不自然な形状の「牛若ひろば」と名付けられた公園があります。

この公園と新寺町通が直線でつながるので、その関係があるのです。

1895年（明治28

年）に開催された第4回内国勧業博覧会に合わせて、開業した京都電気鉄道の木屋町線が通っていた跡になります。

木屋町線は、京都駅を出発点として、東洞院通・七条通・間之町通・上珠数屋町通・新寺町通・木屋町通で木屋町二条に至り、東へ向きを変えて、二条通・疏水浜通・仁王門通の経路で南禅寺橋へと行っていました。ここで経路に出てきた新寺町通が、あの短い道の正体になります。

河原町通は、のちに整備され新寺町通を一部吸収し、新たに京都市電の河原町線が開通します。河原町五条の南東側にあるスーパーマーケットなども奇妙な形の土地（ヘタ地）にありますし、北側の公園も不自然な形をしています。



不自然な形のところには、そう言った必然、つまり歴史があります。不自然に感じられたところについては、調べてみると思わぬ歴史に巡り合えると思います。

明治初期の近代化遺産・避溢橋など

清水満章

「避溢橋（ひいつきよう）」をご存じでしょうか？紹介させていただくのは、約150年前に建造された橋を現在も利用している例です。皆さんの利用されるJR京都線（東海道本線）の長岡京駅周辺で見ることが出来ます。

「避溢橋」は、川の氾濫で洪水が発生し、鉄道や道路の築堤で水が流れずに水が溜まってしまうことで、より大規模な浸水被害が発生しないように、築堤に切れ目を入れる目的で作られた橋になります。



JR長岡京駅の京都方には、6連の煉瓦アーチ橋から成る七反田橋梁があります。（写真上）大阪方には三連の老ヶ辻橋梁があります。

共に明治の近代化遺産です。（写真下）

素晴らしいのは、1877年に大阪・向日町間が開通した際に使用され始めて、今年で

149年経過していますが、今だに現役で多くの列車を受け止めて活躍しています。

他にも、水路を通すために作られた「ねじりまんぼ」が、今は人も通るようになって、老ヶ辻橋梁のさらに大阪側の大山崎町に入

たところにあります。

JRで大阪へ行かれるときに、約150年前の構造物の上を走っているのだと思ひ出してください。

紹介したい事と処 飛鳥井 洋子

令和と共に枚方から京都に転居し、数多くの講座に驚くとともに楽しませてもらっています。

大学の街、京都らしく大学コンソーシアムを始め様々な大学の社会人向け講座。区、市、府が後援する講座に京都博物館の土曜講座など本当に飽きません。

午前は当会の、午後は博物館へと梯子する日もあり、ありがたいです。

京阪墨染駅近くの藤森神社の追儺式では、赤鬼、青鬼登場の前に雅楽と舞楽が行われ、最後は一部福引付きの豆が撒かれます。

菖蒲の節句発祥の地とかで5月の節句には駆け馬神事があります。一昨年は、借用した馬が障害物専門だった為に舞殿前の柵を飛び越えて乗り手が落馬骨折という笑えない落ちがありました。

来年の干支は午なので競馬関係者の参拝が例年以上だと予想されています。

京都で二番目に好きな「二ノ瀬」

小山 なつ

叡電鞍馬線のもみじのトンネルを抜けた所にある二ノ瀬の集落へは、市原から歩いて

楽しいです。頭上に走る叡電の線路を越える
と道は二股に分かれますが、どちらの道を選
んでものどかな山里の風景に癒やされます。
鞍馬駅へ向かう叡電の車中から見える赤い鳥
居は、惟喬（これたか）親王を祀る神社です。

「二ノ瀬」の地名の由来は一説には、惟喬親
王が藤原一族から逃れて、雲ヶ畑の市ノ瀬（一
ノ瀬）の次に、この地で暮らしたことだそう
です。親王は在原業平や僧正遍照とも親しく、
古今和歌集などに歌を残しています。

二ノ瀬の集落を歩くと、まるで横溝正史の
小説に出てきそうな、おどろおどろしいオブ
ジェに幾つも出会います。小鳥の巣箱のよう
なものが二つ並べられていて、片方のオブジ
エの杭と、斜めに交差して取り付けられた2
本の木には白い紙が巻かれています。これは
愛宕灯籠であり、毎日灯とぼしが行われてい
ることを教えてもらいました。横にある木箱
の中には、愛宕山のお札が納められているそ
うです。

京都の東の端に位置する二ノ瀬から、愛宕
山を拝むなんて、不思議に思えましたが、洛
北での愛宕信仰は厚いようです。京都市内
には二百基以上の愛宕灯籠がありますが、お札
箱併設の、木製の愛宕灯籠は二ノ瀬の六基だ
けのようでした。しかし昨年の11月の中旬に、
京都バスの停留所前にあった灯籠が崩れ、今
ではお札箱だけが寂しく立っています。

昔の姿そのままに残る一里塚

中田卓美

定年後しばらくの間、東海道・中山道や近
畿周辺の古道の多くを巡りました。その当時
、目の当たりにした時に思わずはっと息をの
んだ史跡（一里塚）があります。
一里塚は江戸の日本橋を起点として1里（

約4キロ）毎に街道の両側に5間（約9m）
四方の塚が築かれ、旅人の旅程の目安や馬や
駕籠の賃金の目安になるなど街道インフラと
して重要な役目を果たした施設です。
しかし、今や消滅や荒廃が進んで街道の両
側に一対で存在するものは少数となっていま
す。



八瀬沢一里塚
(琵琶峠 西坂)

紹介したい史跡は全国的にも希な『街道の
両側に昔の姿そのままに残る連続する六ヶ所
の一里塚』です。中山道の御嶽宿と大井宿の
間にあり、西から鴨之巣・奥之田・八瀬沢・権
現山・紅坂・榎ヶ根の一群です。

これらは山中の狭い尾根筋に通された街道
に工夫を凝らして設置されています。周りを
樹木に囲まれる街道を進むうちに突然と現れ
る一里塚に古の空気を感じます。

私の好きな京都

樋口登志子

目に慣れ親しんだ山々の稜線が大好きだ。私
は、北区で暮らしている。外に出れば、その
姿が見え、帰宅すればそばに在る。毎日目にす
る、それは比叡山。凛々しく。
高校1年の遠足で初めて愛宕山に登った。

低山とはいえきつい山で翌日、脚の酷い筋肉
痛に同級生と笑い合った。頂上には神社があ
り別天地の様だった。時を経て社会人になっ
てから幾度も登り、身近な山となった。しか
しその山容を知るのはもう少し後のことだ。
勤務地が桂に変わった。阪急電車で通う。
西京極駅を経て桂川を渡る車窓から北西方向
に現れる山の姿に魅了された。以来その稜線
が大好きで、今では南西方面に遠出した時等
の帰りに見えてくるとほっとするのだ。

毎日サイクリング？な岩倉方面への通勤も
あった。堀川通りを北上する先には、上賀茂
の神山。家路に着く時には西方向に台のよ
うな形が迎えてくれる。鷹峯三山の一つ、桃山
であろうか？円やかな稜線だ。久方ぶりに登
ってみたいと思った。
2025年2月4日夕方愛宕さんが見えた



掲載文に間違いがありました。

お詫びして訂正します。

山田久男

「2024・9月号の立見尚文將軍の話」で
油小路事件に立見鑑三郎が遭遇としていまし
たが、遭遇したのは、同藩で同じ公用方の小
山正武でした。
同氏は立見と共に戊辰戦争を戦っています。
後に大蔵省の官僚に出世しています。

「驚き、桃の木、明治の記」

④⑦ 五代友厚（後編）
チーム葵 今川博明

五代は鉾山から銀、銅などを掘り出す精錬技術を海外からいち早く導入し、鉾山王となります。

このほか、大阪の恩人と言われる通り、大阪商法会議所の設立のため、嘆願書を大阪政府に提出するのですが、嘆願書を集めるときに『後になって、会の加盟を申し込んでもお断りするか、巨額の入会費を徴収しますよ』と強引な勧誘方法を取ったようです。

他のエピソードとしては、首都を大阪にしたいと大阪遷都を提案し、木戸孝允もこれに賛成したと言われています。でも実現しなかったのは、公家と京都市民の大反対があったからだそうです。

また、薩英戦争でイギリス船の捕虜となつた際には、日本の武士がもつ「国のために死をも恐れない覚悟」を敵の司令官に説明して、早期停戦を提案したとも・・・。

彼は、東の渋沢、西の五代と呼ばれるように、資本主義の父・渋沢栄一とよく比較されました。でも渋沢は91歳まで長生きをしたのに、五代は糖尿病を患って、僅か49歳で亡くなりました。酒が好きだったことと激務のため、最後はやせ細っていたようです。大阪商船（のちの商船三井）や大阪堺鉄道（のちの南海鉄道）の設立事業を続けていたころ、ついに倒れ、静養のため東京の別荘へ移動します。また大阪へ戻ってくると言い残したものの、急死してしまうのです。実際に亡くなる8ヶ月前、彼は大阪の淀屋橋近くに、新しい家を建設していました。そのため、東京で亡くなりましたが、この大阪の新しい家に運ばれて、葬儀が行われたのです。

京都の地味な話

チーム彩 奥西不二

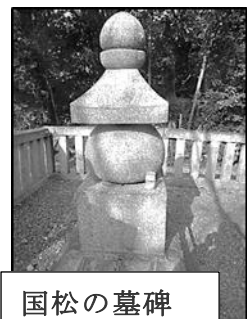
「秀吉の側室と秀頼の庶子国松の墓碑」

東山七条の周辺は秀吉ゆかりの場所だらけです。方広寺、豊国神社、妙法院の庫裏、十三間堂の太閤塀などなどはよく知られたところでは。京都女子大へ女坂を登り、さらに行くとプリンセスラインのバス置き場が太閤垣で、突き当りが豊国廟です。参道の北側に玉垣囲まれた中に五輪塔が二基あります。小さい方が秀頼の側室の子で国松の墓碑です。

千姫が正室として嫁いできたので京極若狭家に預けられ、大坂冬の陣の時に大坂城に入り秀頼と対面するも、翌年に夏の陣がおこり城から逃れるも捕らえられて六条河原で処刑されました。わずか七歳で誓願寺に葬られたのです。その横にある大きな五輪塔が秀吉の側室の松の丸殿で、国松の遺骸を引き取って誓願寺に埋葬したとされています。武田元明の正室で寡婦となつた松の丸殿を秀吉は大変気に入っていたそうで醍醐の花見では北政所淀殿に次ぐ三番目の存在でした。明治四四年



松の丸殿の墓碑



国松の墓碑

に誓願寺の寺領が売られたのでこの場所に移されたと思うのですが、新京極の雑踏を逃れ秀吉が眠るこの場所のほうがふさわしいような気がします。



窟屋の入口にあるレリーフ、ここが善導大師と法然が夢の中で出会ったとされる場所を表すもので左が善導で右が法然。

東山は念仏のふるさと

チーム彩 奥西不二



平安中期、世の中が疫病や災害に襲われ「末法」と呼ばれたところに

恵心僧都源信によつて著された『往生要集』は比叡山を下りました。まず極楽浄土を希求する貴族たちの心をつかみ道長が帰依し、その子頼道は平等院を建てました。同じころ山を降りた空也は「市聖」と呼ばれ、鉦をたたき念仏を唱えながら「南無阿弥陀仏」を市井に広めていきました。晩年は東山の麓に西光寺（後の六波羅蜜寺）を建立し、そこで亡くなっています。

平安末期になると法然房源空が比叡山から黒谷の小山（現在の金戒光明寺あたり）に草庵を建て弟子たちに「専修念仏」を説きました。その後吉水（現在の円山公園の安養寺あたり）に移り本格的な布教活動を始めます。その頃六角堂に参籠していた親鸞も弟子の一人に加わりました。知恩院の鐘楼から將軍塚への山道を少し登ると「法垂（ほうたる）」の窟屋があります。ここは法然が善導（浄土



『大念仏狂言に惹かれて』
講師 岡本 弘

【研修企画】
○3月23日（日）9時半～11時
ひとまち交流館 第3会議室

教の祖」と夢の中で出会い、ますます念仏への思いを強くしたと言われているところですが、時宗の開祖一遍は空也に憧れて踊り念仏をはじめ、「南無阿弥陀仏」と書いた念仏賦算（お札）を配っていました。その一遍上人像（重文）があるのが長楽寺です。比叡山に始まる東山三十六峰ではいたるところで「南無阿弥陀仏」が聞こえてきます。だから東山は念仏のふるさとなのです。

演劇も絵画も初めて観た時の感動が大事と言われます。

念仏狂言は、鉦・太鼓・笛だけで、台詞は無く（千本閻魔堂は一部演目にある）、身振り手振りで進む無言劇です。

狂言と言いますと、多くの人は茂山家や野村家が演じる能狂言を思い浮かべますが、これとは異なります。念仏狂言は、宗教の布教を目的に変化・発展してきました。これらを時代背景と重ねて話を進めていきます。

上記の研修の申込みは3月17日（月）まで
お願いします

企画研修 今井満 090-5362-8981

アドレス mitsuru_imai@kiu.biglobe.ne.jp

振り返りのお礼とお願い

2021年10月16日に第一回の研修を始めて、54回も続け延べ1423名の会員。賛助会員が学ばれました。講師を引受けられた会員様に、紙面を借りてお礼申し上げます。また新人ガイド研修は、2020年9月12日から座学と実技を始め18回開催し、多くの方々がお越しいただいて、会員・賛助に80数名入会いただきました。

お知り合いに京都や歴史が好きで学びたい方がおられましたら、3月に新人ガイド研修がある事をお伝えください。（HP参照）

ふれあい通信三百号

編集委員長 澤田卓

三百号の作成に、会員、賛助会員の皆様に多くの投稿をいただきまして、記念号は8ペ



ージの特集号となりました。

私も当協会発足時から携わっていましたが、紅顔の美少年（45歳でした）もいつの間にか年金生活者となりました。当時高校生だった娘に京都祭に参加依頼を断られ、バイト料を出すという二つ返事で出てくれた彼女も二児の母となりました。

当時の写真からお世話を戴いた方を多くお見送りしながらも協会と共にふれあい通信も受け継がれているのですね。今後とも皆様の投稿をいただき物語を紡いでゆきましょう。